

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回からの主要変更点

	前回(令和4年6月)	今回(令和4年9月)	
景況判断	持ち直しの動きがみられる	<u>緩やかに持ち直している</u>	
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	<u>緩やかに持ち直している</u>	
雇用情勢	持ち直しの動きがみられる	<u>緩やかに持ち直している</u>	

1. 鉱工業生産等の動向

(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

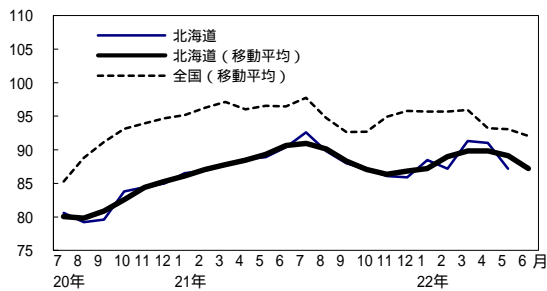
4 - 6月期には、生乳生産は総量では1,107,062tと前年比2.3%増となった。主な水産物の生産額(主要9港)は、ほっけ等が減少したため、前年比9.5%減となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4 - 5月期の鉱工業生産は、輸送機械や石油・石炭製品が増加したこと等により、前期比0.1%増となった。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

鉱工業生産指数



	付加価値 ウェイト	生産			
		1 - 3 月期	4 - 5 月期	4月	5月
食料品	25.9	6.1	1.5	3.4	6.8
パルプ・紙	13.1	1.9	0.8	0.8	5.7
電気機械	9.1	2.1	3.8	5.5	6.6
鉄鋼	7.9	10.2	6.3	13.3	6.5
化学・石油石炭製品	7.6	5.2	7.4	3.0	0.1
鉱工業	100.0	3.0	0.1	0.3	4.2

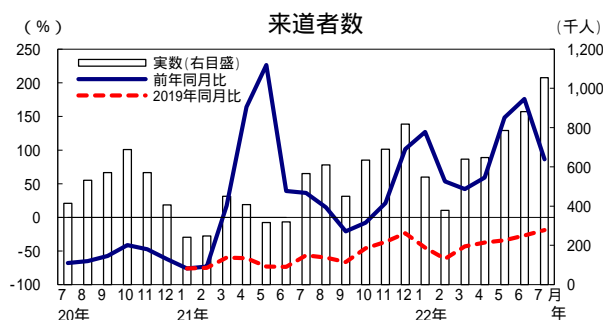
(備考) 1. 2015年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均、
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4 - 5月期、5月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は緩やかに持ち直している。

4 - 6月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比 121.6%増(2019 年同期比 32.8%減)となった。月別では、4月に前年同月比 58.9%増(2019 年同期比 37.5%減)、5月は同 147.9%増(同 34.3%減)、6月は同 175.6%増(同 27.2%減)となった。7月は同 86.4%増(同 18.8%減)となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4 - 6月期は前期比 3.7%増となった。月別にみると、4月は前月比 2.2%増、5月は同 3.9%増、6月は同 4.8%減となった。

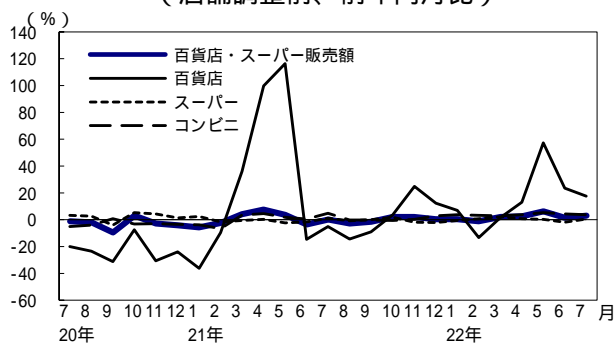
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比 3.5%増となった。月別にみると、4月は前年同月比 2.6%増、5月は同 6.4%増、6月は同 1.5%増となった。

百貨店は、4 - 6月期は前年同期比 29.0%増となった。

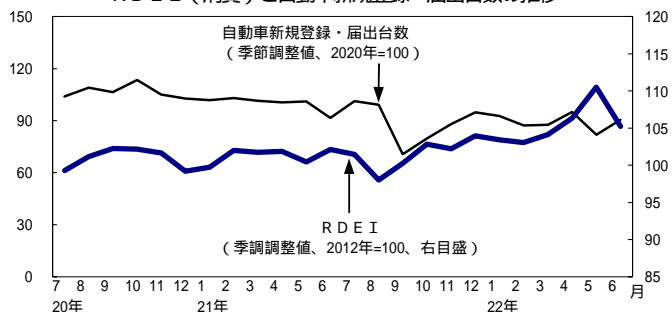
スーパーは、4 - 6月期は同 0.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2022年4-6月	2022年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	3.7	2.2	3.9	4.8	
百貨店・スーパー(*2)	3.5	2.6	6.4	1.5	3.1
百貨店(*2)	29.0	13.1	57.4	23.6	17.8
スーパー(*2)	0.2	0.9	0.4	1.9	0.5
コンビニ(*2)	4.6	3.9	5.5	4.3	3.7
乗用車(*3)	8.7	6.8	18.4	1.9	4.8
(季節調整値)(*3)	0.1	8.5	13.8	10.6	6.4

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

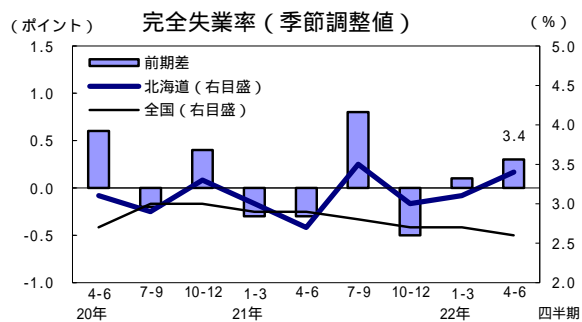
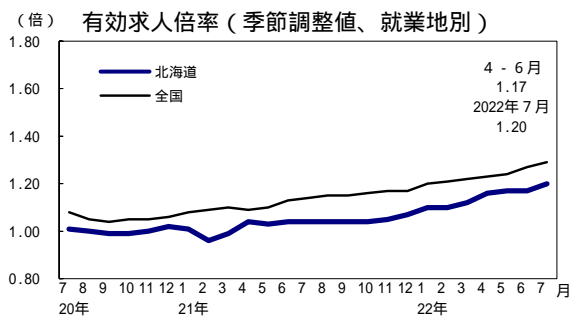
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2022 年 7 月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・一部で観光客の動きがみられるが、新型コロナウイルスの感染者数が増えているため、販売量は行ったり来たりを繰り返している。全体的には余り大きな変動はみられず、現状維持での推移となっている（コンビニ）。
		○	・3年ぶりに行動制限のない夏季繁忙期を迎えたことから、7月の航空需要は新型コロナウイルス感染症発生前の81%まで回復した。8月のお盆期間は帰省などの生活需要が活発であり、空港では久しぶりに家族を出迎える光景が多くみられた。空港の国内商業施設にもにぎわいが戻っている（旅行代理店）。
		▲	・新型コロナウイルスの感染拡大による来場者数の減少に加えて、様々な原材料価格の高騰による商材の値上がりもあり、販売量の減少傾向がみられる（百貨店）。
	企業動向関連	□	・受注量が増えている客先と減っている客先があり、全体量では変わらない状態となっている（輸送業）。
		▲	・売上は前年と比較すると若干良いが、3か月前と比較すると1割ほどの落ち込みとなっている（食料品製造業）。
雇用関連	○	・地震や大雨の影響が一部の土木工事現場でみられたが、大きな支障を来すことなく、全体の出来高が順調に積み上がっている。新型コロナウイルス感染症の第7波にあっても、民間建築の見積り引き合いが増えていることもプラスである（建設業）。	
	□	・求人広告は前年比120%の申込みとなっている。ただ、飲食、清掃、給食会社が倍増と好調なのに対して、当地の主幹産業である建設業が70%にとどまっていることが気掛かりである（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴コメント		○	・国内の観光客の動きが活発で観光地に人が集まっていることで宿泊業、旅客運送業などの求人数が増えている。新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しているものの、飲食店の求人も堅調である。建設、運輸業も引き続き堅調で、外国人雇用のニーズが高まっている（求人情報誌製作会社）。
その他の特徴コメント		○	○：新型コロナウイルスの感染者数が増加しているが、客の動きは衰えておらず、来客数が伸びている。客の来店頻度も高くなっている（美容室）。
その他の特徴コメント		□	□：新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着いてこないことからキャンセルが発生している。そのため、来客数の変化がほとんどみられない（タクシー運転手）。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計動向関連	□	・新型車の投入が予定されているが、生産状況が不透明なことから今後の景気が良くなることは考え難い。ただ、客の動きが堅調なため、今後も現状維持の状態が続く（乗用車販売店）。
		▲	・今後、原価の高騰に伴う値上げが続々と行われるため、客の生活防衛意識が間違いなく高まることになる（スーパー）。
	企業動向関連	□	・3か月前までの受注が既に確定しており、これ以上の仕事を受けようにも人手が足りない。同業他社も似たような状況のようだ（その他サービス業 [ソフトウェア開発]）。
		▲	・これから冬季に向かうなか、不動産業や建築業は徐々に取引量が少なくなることから、景気はやや悪くなる。円安や物価上昇も取引量の減少に拍車を掛けることになる（司法書士）。
	雇用関連	□	・新型コロナウイルス感染症の第7波による経済への影響、原油や原材料価格の高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、業況が堅調な事業所からの求人もあって、新規求人数は維持できていることから、今後も景気は変わらない。新規求職者数が前年から減少していることも持ち直しにつながっている（職業安定所）。
その他の特徴コメント		○	○：以前のような個々の客による健康相談が増えているなど、良い傾向がみられる。こうした新しい客の動きが今後も続くことで景気が良くなると期待している（その他専門店 [医薬品]）。
その他の特徴コメント		□	□：諸物価が高騰していることもあり、今後については楽観できない状況が続く（一般小売店 [酒]）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

